発展的学習授業実践指導案

1　単元名
「イネの副産物の利用と米栽培と社会の結びつき」　　授業時数　８時間
2　実施期間
平成１６年１１月１０日（水）～２４日（水）
3　対象生徒
生物生産科３年生(水田選択者)　７名

Ⅰ　単元名：イネの副産物の利用と米栽培と社会の結びつき

1　目標
イネの副産物に関する知識を習得させるとともに、稲わらを使用した作品製作をすることにより、米栽培と社会の結びつきについて考えさせる。

2　単元の評価規準

関心・意欲・態度	稲わらを使用した作品製作やイネを中心としたイメージマップ作りに意欲的に取り組もうとしている。（観察、自己評価）
思考・判断	稲の副産物の利用法について考えることができるとともに、現代社会においてそれらがどのように活用されているかイメージマップをとおして考えることができる。（観察、ワークシート）
技能・表現	稲わらに関する基本的な特徴を読み取ることができ、稲わらを使用した作品製作やイメージマップの作製をすることができる。（観察、ワークシート）
知識・理解	イネの栽培を通して、副産物の利用方法と、米栽培と社会との結びつきについて理解している。（ワークシート、自己評価）

3　準備
資料、ワークシート、模造紙、稲わら、演示用材料（ワラ納豆、ワラ細工、、ぬか漬けセット、ムシロ、その他）

4　展開
関：関心・意欲・態度、**思**：思考・判断、**技**：技能・表現、**知**：知識・理解

	学習内容	時間	生徒の活動	指導上の留意点	評価項目(方法)
導入	イネの副産物の種類	１０	・イネの副産物の種類を発表する。	・イネを刈り取り、脱穀、もみすり、精米後は何が残るか考えさせる。	・イネの副産物の種類を発表しようとしている。（関・観察法）
	副産物の利用法	２０	・副産物の利用法を考える。	・イネの副産物を利用した作品などを見せヒントを与える。	・イネの副産物がどのように利用されているかわかる。(思・ワークシート)
	稲ワラを使用した作品製作	３０	・わらすぐりの実施	・わらの中に指を広げて、根元に向かって	・わらすぐりの方法を理解している。

展				指を通すようアドバイスする。	（技・知・ 観察法）
		３０	・わら打ちの実施	・わら打ちにより、やわらかく弾力性も増し、丈夫になることを教える。	・わら打ちの方法を理解している。（技・知・ 観察法）
		６０	・縄ないに挑戦	・稲わらの持ち方や、手のひらの動かし方など確認し理解できていない生徒には個々にアドバイスをする。	・稲わらの持ち方や手のひらの動かし方などを理解している。（技・作品法）
				・縄ないはよりをかけることがポイントであることを教え、実際に演示してみせる。	・縄ないのポイントを理解している。（技・知・ 観察法 ）
開		７０	・稲わらリースの作成	・リース作製に使用するテープや小物などを提示しながら分かりやすく説明する。	
				・リース作製は、よりやねじりをきつくしないで、やわらかい感じになわをなうようアドバイスする。	・リース作製のポイントを理解し作品を製作することができる。（技・知・作品法）
				・効率よくリース作製ができるように、各生徒を把握し、つまづきの見られる生徒には適切なアドバイスをする。	
	米栽培と社会の結びつき	３０	・米栽培と社会の結びつきについて知る	・イネの栽培からほかに眼を向けると、稲の副産物の利用に始まり、農家の生活の知恵など米栽培と社会の結びつきについて広がりがあることを教える。	・米の利用、農家の生活の知恵など理解し、米栽培と社会の結びつきについて感心を示している。（関・知・ワークシート）
		２０	・イメージマップについて知る	・イメージマップとはどういうものか理解できるように大豆を例に取り、わかりやすく説明し、イネから始まるつながりについて考えさせる。	・イメージマップに関心を示している。(関・観察法)

		５０	・稲を中心としたイメージマップ作り	・イメージマップとはどういうものかを黒板に見本を掲示しておく。 ・生徒が実際に食べている食べ物や調味料を例にとり、その原材料は何か考えさせる。 ・生徒の状況に応じて、身近な例からつながりについて考えられるようなヒントを与える。	・イネから始まるつながりを考えることができ、それをイメージマップに表現することができる。 （技・知・ワークシート）
		５０	・各班ごとの発表	・発表する生徒には大きな声で堂々と発表できるよう励まし、聞く生徒に対しては自分たちで考えたことと比較しながら聞けるように助言する。 ・各班ごとに考え、作成したイメージマップを発表し、自分たちで考えた米栽培を含めた農業の大切さ、役割などを発表させる。	・自分たちで考えたイメージマップを他の人の前でしっかり発表でき、農業の大切さや役割を理解している。 （技・知・観察法）
まとめ	本時のまとめ	３０	・自己評価 ・ワークシートのまとめをして学習内容を振り返る。	・自己評価を含めて空欄のないように指示する。 ・まとめに際して、稲わらを使ったリース作りをして楽しかった点、難しかった点をワークシートに記入すよう助言する。 ・イメージマップ作成においては、暮らしと稲のかかわりについてどういう感想を持ったかワークシートに記入するよう助言する。	・自己評価、ワークシートの内容から取り組みの様子を確認する。 （関・ワークシート） ・暮らしと稲のかかわりについて理解している。 （知・ワークシート）